

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273100295		
法人名	社会福祉法人天祐会		
事業所名	グループホーム富士見苑		
所在地	千葉県富津市篠部2310-3		
自己評価作成日	平成31年3月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ウェルビーイング		
所在地	千葉県木更津市東中央1-1-13マコーラ第一ビル6階604		
訪問調査日	平成	31年	3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者が健康面、安全面で不安のない生活が送れると共に、楽しく生き生きとした人生が送れる様に支援をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は天気の良い日は富士山が見える平屋造りの2ユニットのグループホームである。自然に囲まれ暖かい日には散歩をする事を心掛けている。地域の行事に参加し、コミュニケーションを回り協力関係を結んでいる。運営推進会議では市役所、地域包括、区長などの参加で行われ現状報告、ヒヤリハット、防災訓練の様子などを伝え、要望や意見を聞き運営に取り入れる様に前向きに考えている。地域の連携を強化し災害時の協力体制に基づきたいと考えている。医療は医師、看護師、月1回の往診、近況時には往診してくれる病院と連携し入院時は安心である。食事は栄養管理されたメニューで地域の食材を使用し手作りである。外出は人手不足で大変であるが利用者が楽しみにしている外食を行うよう支援に努めている。外部内部の研修を行い質の確保に努めている。管理者、職員は精一杯のケアを行い家族の様に過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念、富士見苑の運営理念を掲示、月、一度の職員会議にて理念の唱和を実施している。	理念を壁に掲示し職員は日々目にしサービスに繋がっている。月1回会議を行い利用者の様子や気付きを話し合いケアに活かしている。問題が起きた時は随時対応するよう心掛け支援に繋がっている。管理者は、地域の中で利用者が自分らしく生きる為の支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会や座談会へ参加し、地域と交流しているが、日常的な交流は殆どない。	地域の行事は出来るだけ参加している。地区では月初めに座談会を行う。敬老会、缶拾いなど行われる。区長とは運営推進会議に参加して頂きコミュニケーションを取っている。災害時は地域と協力関係を結びたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に支援経過を報告する以外は行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	身体拘束(スピーチロック)や災害時の避難等について意見を頂き、サービスに生かしている。	年6回運営推進会議を行い市役所、地域包括支援センター、区長などの参加で現状報告、ヒヤリハット、災害対策、行事報告など意見や要望の話し合いが行われ、運営やサービスに結び付けて行きたいと考えている。2ヶ月に1回の会議は難しく、内容をもっと充実させたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者との連絡は殆ど行っていないが、時々、生活保護者の入所相談を受けている。	市は【運営推進会議に参加して頂きアドバイスを頂く。ヒヤリハットの関わり、生活保護の利用者が5名おり常に連携を取り合い情報の共有、課題解決の為の支援が必要であり、関係作りに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束は行っていない。玄関の施錠については、20時に施錠し、翌朝の5時頃、開錠をしている。	夜8時施錠、翌朝5時に開錠。玄関の施錠も身体拘束であり自由な暮らしに心掛けている。しかし外は竹やぶで危険なため外に出たら大変である。安心、安全を考え検討中である。身体拘束の研修を行い職員に理解を得られるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について職員研修を実施。また、虐待や虐待類似行為があれば、直ぐに報告し、職員間で注意をする様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会はない。現在、日常生活自立支援事業利用者1名、成年後見人制度利用者1名がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や退所時に不明点がないか確認をし、何か分からない事があれば、連絡をするように伝えている。改定があった際には、文章で通知をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や利用者の要望等を外部に表せる機会は運営推進会議しかない。施設内部では職員会議や朝礼、昼礼等で伝えている。	利用者、家族は訪問された時や会議で話す事が出来る。家族アンケート調査で意見などを書く事が出来る。利用者は日々職員と話、自然に思っている事が伝えられる。職員は利用者の仕草からも嫌がる事や好む事が解り受け止めている。職員会議は月1回実施し利用者の様子は伝え共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や随時に意見や提案を聞いている。	職員は利用者の状況や実情を会議で話、管理者は職員の声に耳を傾け現場の意見を聞き、勤務体制や配置を検討している。個人的な悩みや要望を聞き働き易い職場を目指している。職員の努力や実績を評価している。外部や内部研修に参加し技術面や質の向上に向け学ぶ機会を作りレベルアップを目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算の算定、昇給の実施、手当の見直しを実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度、施設内研修を実施、また、外部研修に出席されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に希望や要望がないか尋ね、入所後も何かあれば、施設側から訪ねまた、利用者からも何かあれば、遠慮なく質問するように話している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設を利用するにあたり、家族に要望、不安等がないか尋ねると共に、施設利用中に何かあれば質問する様、伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設利用前にアセスメントや聞き取りを行い、必要なサービスの見極めをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は職員と一緒に家事を行い、何か行いたいことや行きたい場所について尋ね利用者と共に生活が出来る様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に利用者の要望、状態を伝え病院受診や面会、買い物依頼をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	連絡したい方がいれば、連絡の取次ぎをおこなっている。	利用者の面会は少ない。年に1回の初詣、イオンで食事、人と場のふれあいがあり楽しみにしている。春は桜の季節でお花見で気分転換が出来た。仲間同士のつき合いは職員が間に入り支援している。職員と利用者は家族の様な関係であり、掃除を手伝う、食器拭き、洗濯物を畳む等支え合い自分の力を発揮しながら繋がりをつくっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者の間に入り、利用者同士の関係作りが出来る様に支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族から相談があれば応じているが、施設側からは行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者を支援している中で、ご利用者の要望や意向を把握し、出来る限り本人の要望が実現出来る様にしている。	利用者一人ひとりの思いを聞くように心掛け、声に出して話せない利用者でも表情や仕草で把握し理解するようにしている。利用者は月に1度の外食を楽しみにしている。和食は回転寿司、ファミリーレストランで好みの物を食べる。その人の気持ちの表れや生きる力を発揮し自分らしく暮らす事が出来る。利用者は職員に衣類など欲しい物を伝えて実現する事を楽しみにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族や本人からの聞き取りや他の事業者の記録から把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや様子観察を行い、ご利用者の状態把握を行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員と話し合い、利用者の状態にあった介護計画の作成をしている。	利用者、家族、関係者に気付きや意見を聞きこれまでの生活歴を把握し計画を作成している。業務日誌やケース記録で半月に1回見直しを行い、変化が生じた場合は臨機応変な対応を行うようにしている。家族は安心して施設に任せており、手紙で様子をお伝えしている。利用者も変化しており、モニタリングや会議を行い状況を記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌やケース記録に利用者の状態を記録し、情報共有や介護計画の見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の要望に対しては、出来る限り対応するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	観光地や飲食店等を把握し、行事に活かした変ある生活が出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には主治医に受診をしているが、主治医が対応できない場合には、他の利用者や家族が希望する医療機関があればそこに受診をするようにしている。	月1回の往診で医師と看護師の連携は取れている。利用者に問題が起きた時は往診してくれる。入院時は病院と連携を取っており安心である。利用者の専門医にかかる場合は職員の対応で行っている。医師と連携を取りながら支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診や訪問看護時に利用者の状態を伝え適切な医療が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	適時、随時に連絡をし、適切な治療と早期の退院が出来る様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や入所後に終末期や重度化した際の対応について家族や利用者に尋ね、施設が行えること説明し、終末期や重度化した時の方針を決め、それを主治医に報告している。	利用者、家族には入所時に終末期のあり方や施設が出来る事を説明し方針を決めて頂いている。利用者変化が生じる前に家族と話し合いを持ち医師と連携し精一杯の介護を行える様に職員とも状況の変化に付いて話し合いを持つようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	あまり行なってはいない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	基本的に年3回の避難訓練を実施し、避難訓練の様子を運営推進会議時の報告し、地域の協力を得られる様にしている。	年3回の訓練を行う。今回は2回しか出来なかった。消防署の指導を受けながら行う。地震や津波、昼夜など訓練で避難体制を整えている。地域住民との連携を取り合える様に考えている。運営推進会議で話し合いを持つ。備蓄品を用意し無洗米、水、蕎麦、うどんなど用意し賞味期限にも注意している。	今回の避難訓練は2回しかできていないので次回は必ず年3回訓練をして海岸にも近い事も有り津波対策を主にした訓練をお願いしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧で優しい声掛けをする様にしている。	利用者に対しての言葉遣いに注意し、一人ひとりの人格を尊重し対応している。日々の生活の中で馴れてしまう為日々確認しながらケアを行う事が大切になってくる。優しい声掛け、日常的な改善、目立たずさり気ないケアを目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者に何でも職員に話す様に伝え、また、話しやすい様に穏やかさが雰囲気で見えやすいようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴等、以外は利用者の思いのままに生活できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定が出来ない方は職員が行い、自己決定出来る方は、その利用者に尋ね行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は職員が行なっているが、後片付けやオヤツ作りは職員と一緒にしている。	食事は本部からのカロリー計算されたメニューがある。職員の手作りで地元の野菜を使用している。食後は利用者がかたづけを手伝い張合いになっている。おやつ作りを行い自分の力を発揮し作った物を一緒に食べる喜びに繋がっている。外食を行い好みの物を食べる。食を通し様々な取り組みを行い見守りがあれば心身の力の維持向上に繋がる。水分や栄養、摂取量を確認している。口腔ケアの予防を行い口腔内清潔保持に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態や摂取量を見て、個々の利用者にあつた、食事形態を提供し、また、食事摂取状態や体重を主治医に伝え、栄養確保が出来ているようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は本人に任せ、時々、口腔内のチェックを行い、自分で出来ない方はインジゲンで口腔清拭を行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、定時・随時にトイレへの声掛け、誘導を行っている。現在、オムツ使用者は1名。	自立支援に取り組み声掛け誘導を行っている。車椅子でも支援があれば自立に繋がる。施設には自立の利用者が多い。水分補給や運動、レクリエーションで体を動かし便秘の予防に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を多くし、レクリエーション等で体を動かし便秘防止に努めている。また、便秘の状態を主治医に報告し、便秘薬の処方検討をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は2日おき等、ローテーションで入浴をしている。入浴希望があった場合には、入浴可能であれば入浴をしている。	入浴は週3回、午後1時～3時半までに入る。拒否の利用者が1名おり声掛けを行い気分良く入って頂く。入浴剤を使用し寛いだ気分で入浴できる。常に清潔を維持し体調の改善に心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息、睡眠は利用者の自由で行なっている。日中、自分で休めない方は、職員が利用者の様子を見て、ベッド誘導をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、薬の説明書で用法、用量、副作用について確認できる様にしている。また、服薬中に変化があれば、主治医に報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の個々の状態に合わせて、職員の手伝いやレクリエーションを実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人員の関係上、その日の希望にそって戸外に行くことは困難である。日程を調整し、外出するようにしている。また、家族に外出依頼をしている。	暖かい日は少人数だが散歩に出かける。施設の回りを歩き家族の協力を得て戸外に出掛ける事も有る。少しでも外に出て日光浴やストレス発散をする機会を作る事が大切である。ガラス越しでも日光浴を楽しむ時間を作る。病院や買い物、外に出る事は五感刺激を得る貴重なチャンスなので日々の中で活かし支援を行うよう心掛けている。	職員不足の関係も有り、日々の生活は大変でしょうが、日程を調整し出来るだけ外出支援に心掛けられることに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設で管理を行い、利用者から購入希望があれば、職員が買い物を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの要望があれば対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心がけ、季節の飾りつけを行い生活感が出せる様にしている。	施設全体はバリアフリーである。天井が高く、明るいガラス越しから光が入る。リビングは利用者が食事やレクリエーションを楽しむ。クリスマスには飾り付けを一緒に行い楽しい一時を過ごしている。和室の部屋ではテレビ鑑賞や洗濯物を畳む利用者もいる。ガラス越しから季節を感じられる。カウンターで食事の支度をしており家庭的である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースはいつでも自由に使用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用していた馴染みの物を持ち込み生活しやすくしている。	利用者は使い慣れた馴染みの物を置き過ごしている。ベッドや布団は好みに合わせて使用している。衣類の交換は職員が行う事が多い。居室は窓があり圧迫感がない。その人らしく過ごせる様に働きかけを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や段差の解消、張り紙等を行い安全、安心して生活できるようにしている。		